

# 工事常識 材料の研究と着眼点

## 建築材料見積の研究 (2)

林 有 一

経験の深い林氏が、筆に委せて長い間の研究を此所に趣味的に書き出さんとするのである。總て工事の經營は着眼點が大切である。其の着眼點は林氏の如きでなくては得られない處があると思ふ。前號より精讀を乞ふものである。(編者)

需要供給の關係を木材の例で説明せば、内地に於ける木材の需要は、年々造材材積約四千五百萬石内外に上るこいふことである、大正八年度の調査によれば

建築用材二千百十萬七千石を主として、バルブ用材二百十一萬六千石、包装箱用材百七十七萬九千石其他を合計して、四千四百四十六萬二千石となる、これが内地の需要木材の數量である、然るに内地の森林から供給し得るものは、需要の約五割六分で、不足分は北海道や樺太からの移入と、北米、西比利亞等からの輸入材で補充される、その内の大部分は北米材で、昭和元年の輸入數量一千萬石、昭和二年には、一千八十萬石、西比利亞材は昭和元年九十五萬石、昭和二年百六十七萬石にのほつてゐる、これは主に建築用材や工業用材である。

かくの如く北米材や西比利亞材が、需給關係に於て重要な地位を占めてゐるのであつてその價格が内地材より低廉であるために、内地材の價格が騰貴しないのである、萬一それらの移輸入材が減少するか、或は全く杜絶する場合には忽ち平衡を失して

内地材の騰貴を來たし

品拂底のため容易に購買することが出来なくなるであらう。

東京材木問屋同業組合から發表する相場月

報を祝るこ

昭和三年十月五日の標準相場として

青梅西川材(挽角)

杉十尺三寸角二等一石 六圓七十錢

杉十三尺三寸角二等一石 七圓三十錢

杉十尺五寸角二等一石 九圓二十錢

杉十三尺五寸角一等一石 十一圓五十錢

杉廿尺一廿六尺

四寸角以上 一等一石 十六圓五十錢

檜十三尺 四寸角以上

一等一石 二十二圓

『區劃整理に依る建築界は目先急速に進展し需要は多々益々増進し、土臺用として檜四寸角柱用として杉廿尺四寸角及十尺四寸角、母屋用として杉十三尺三寸角等、最も需<sup>〇</sup>旺<sup>〇</sup>盛<sup>〇</sup>なるも、幸<sup>〇</sup>ひ<sup>〇</sup>産<sup>〇</sup>地<sup>〇</sup>秋<sup>〇</sup>山<sup>〇</sup>伐<sup>〇</sup>採<sup>〇</sup>期<sup>〇</sup>に際し相當の入荷を觀るため市場相場には格別變化無し』

これによつて市場の標準相場はわかるのであるが、大量取引で直接問屋から仕入れる外は小賣商によらねばならぬ、そこで小賣商の組合が發表する相場表も參考する必要がある、然し金融機關として銀行を利用し得るものは大資本家に限らるゝ實況であつて、充分な擔保もなく信用もない普通商人は、銀行よりも高利を拂つて、金貸業や問屋等から融通を受けねばならぬから、其高い金利が加はへられ

るこゝなり、また仕入の巧拙や仕入の多寡によつて、小賣商の取扱ふ價格がまちまちとなるのである。

かやうにして材料の相場がわかれば、前回にも述べたやうに、市場から建築工場までの運賃を考へなければならぬ。

自動車を利用するを得策とする場合もあるべし、或は又四輪馬車によるを便利とする等地理地形や運送車の數量回数所在等の關係を精密に調査する必要がある。

東京市内外に於ける四輪馬車の所在輛數は前回に掲げたが、貨物自動車の所在、臺數(昭和二年四月現在)を掲ぐれば

京 橋	380	赤 坂	63
麴 町	642	芝	505
日 本 橋	316	深 川	135
神 田	216	本 郷	63
本 所	166	下 谷	58
四 谷	38	牛 込	57
麻 布	44	淺 草	81
小 石 川	100	市内計	2863臺
荏 原 郡	357	西 多 摩	15
南 多 摩	7	豊 多 摩	308
南 葛 飾	113	北 多 摩	94

南 足 立	45	八王子市	37
北 豊 島	234	市外計	1210臺

東京近郊を運轉する貨物自動車の速力は、一時間平均二十哩内外であるが、荷馬車で二十哩の距離を運送するには一日掛りである。

東京鐵道局の調査による貨物小運送料金(昭和元年度乃至二年度)を見るに

到着品目	木 材	木 材	木 材
到着驛名	大 崎	惠比壽	澁 谷
到着場所	平塚町	下澁谷	中澁谷
驛との距離	十五町	十一町	(坂路)十町
運搬費 (自動車)	(荷馬車)	(荷馬車)	
噸當り	一圓五十錢	一圓四十錢	三 圓

到着品目	木 材	木 材	木 材
到着驛名	巢 鴨	目 白	田 端
到着場所	本郷肴町	高田町	尾久、日暮里
驛との距離	二十町	三 町	十五町
運搬費 (荷馬車)	(自動車)	(荷馬車)	
噸當り	一圓廿錢	八 十 錢	一圓五十錢

以上金融事情や需給關係運搬費等の概念につき研究を重ねて來たが、これらの基礎的智識を頭に入れて置いて、次第に各種材料見積の研究に進むのであるが、先づ以て我國特有の名木たる檜材の研究を次回に掲ぐる積りである。

## 盛んなる指定論文

今秋の萬國工業會議に提出さるゝ我國の土木建築に關する指定論文次の如し。

大震災後の建築構造

(早稲田大學理工學部) 内 藤 多 伸  
Earthquake-Proof Construction of Masonry Dam. (内務省土木試驗所長) 物 部 長 穂  
The Reconstruction Works in Tokyo and Yokohama. (復興局土木部長) 大 岡 大 三  
岩壁工事

(内務省大阪土木出張所長) 坂 本 助 太 郎  
東京市下水處理

(東京市下水課長) 原 全 路  
水道鐵管の摩擦に依る損失水頭

(東京市水道局工事課長) 小 野 基 樹  
日本の河川及河川工事に就て

(内務技監) 中 川 吉 造  
日本の港灣及港灣工事に就て

(内務省横濱土木出張所長) 安 藝 杏 一

浮棧橋用鐵筋混凝土ポンツーン

(内務技師) 山 田 三 郎  
東京市道路 (工學博士) 牧 彦 七  
簡易鋪裝工 (復興局試驗所長) 牧 野 雅 樂 之 丞  
低落差水力工事

(東信電氣株式會社技師) 三 野 熊 雄  
下水處理 (大阪市下水課長) 島 崎 孝 彦

水 力 (東京電燈株式會社技師) 神 原 信 一 郎

水 力 (東京電燈株式會社技師) 新 井 榮 吉

Operation and Maintenance of Railway Track in Districts of Heavy Snowfall.

鐵道省工務局長  
Practical Examples of Track Elevation.

大 河 戸 宗 治  
Construction Work of the Kiso & Ibi River-Bridge.

釘 宮 磐  
Construction Work of the Tanna-Tunnel.

鐵道省建設局長  
Retarding Devices for Over-running Car.

鐵道省保線課長  
Ventilation in the Tunnel. 鐵道省改良課長